

科目	授業改善について、独自に工夫されていることについてお書きください。
L	活発なディスカッションのために何が必要か、もう少し検討したい。
L	パワーポイントによる資料の照射、視聴覚教材の活用といった、視覚を重視した授業を進めている。さらに、教授する側の唯我独尊にならないように、適宜、授業内容に関する小レポートを実施することで、学生の理解度を把握した上で授業を進めている。
L	「言語」という日常生活とは切っても切り離せない対象を題材にしている講義であるため、学生の興味・関心を惹起する話題を探すことの必要性を意識し、毎回の講義後の質問・感想を講義の中にどう取り込むかを工夫した。多くの学生が休憩時間や学生同士の雑談のなかで、マンガ・アニメを話題に上げていることから、その中で行われている言語活動と日常の言語活動では異なるメカニズムが働いている点を紹介したところ、多くの学生に支持を得たのが最も大きな収穫であった。また、例年興味関心の高い「ら抜き言葉の是非」、「方言差」というテーマも取り上げたため、カリキュラムの後半は「世界の諸言語」という科目であるにもかかわらず、「日本語」に限定された内容ばかりになってしまったことは反省点である。
L	受講者数が予想以上に多かったため、プレゼンテーションの時、自分がシラバスを作った時にイメージした、個別的な指導が十分にできなかったので、グループ分けなどを工夫したり、メールのやりとりで、コミュニケーションを取るようになりました。
L	一方的な語りの授業にならないようにしている。アメリカでよく見られる(例えば、「白熱教室」のM. サンデル)ように、対話形式で授業を進めている。進度をある程度犠牲にせざるを得ないし、指導目標の達成には追いつかないことが多いが学生には好評な授業方法だと思う。
L	授業内容が理解しやすい様に、分子模型を利用した。また、他者と協力して行動できるようにするために、クラス全体で協力する様な分子模型作成を試みた。
L	染織工房での授業と比べてかなり様子が異なります。 LAの学生たちに学んでもらいたい染織技術内容に少しでも手を使う部分を取り入れたいのですが、与えられた教室と学生人数によって部分的に難しいと感じている。
L	座学によって習得した知識を、製作活動を通して実際に利用し、両者の繋がりを体感できるように心がけている。
L	(2)で書きましたように、毎回の講義では、必ず、「本時のねらい」を伝え、学生自身に問いを持たせ、その問いを解決するための授業展開を心がけました。そして、その問いに正対した「まとめ」をしてから講義を終える努力をしました。
L	授業で使用する本の概要は、ネットで簡単に検索できるのであるから、レポートではできるだけ具体的な課題を与えて、本の内容についてまとめさせるようにしている。また、引用などの仕方、参考文献の挙げ方などもプリントを配って説明し、その後はレポートの評価対象にも加えた。
L	今回が初めての授業で、試行的な面があった。 この授業の目的は、大学生に対する思考力の育成である。 大学生レベルに適した教材を工夫して、今後も授業を続けてゆきたい。
L	障害への招待については、その名の通り、障害について考え、障害者との関わりを再考し、態度を育むことにある。このため、私の授業の他、個人研究費でゲストスピーカーを呼び、障害当事者との関わりを授業の中で数回設けた。本当は、障害当事者、その家族、そして、支援者などより様々な立場の方を呼びたい。が、個人研究費には限りがあるので、たくさんは呼べない。
L	コメント用紙に記入させた、学生の講義内容における疑問点から、過半数以上が理解できていないと思われる内容に関しては、シラバスの予定を変更して違う角度からの説明を行うことで疑問の解消に努めた。 また、講義最初および最後の2回出席を取る形をとることで、講義の途中抜け出しの防止に務めた

L	<p>授業の方法としては、毎回パワーポイントによる説明を行った。したがってほとんど黒板を使用することがなかった。また時々、環境問題に関するビデオ(録画したテレビ番組)の視聴を行った。今後はもう少しそれを増やしたいと考えている。また教室でのインターネットを介した情報も取り入れたことがあった。これももっとスムーズに取り入れることができるよう工夫をしたいと考えている。</p> <p>授業における講義使用については、今年度からはじめて、学びネット上での資料を準備することとし、毎回授業開始の遅くとも前日朝までには、ネット上に掲載するよう努めた。全体ではA4で80~90ページの講義資料になった。この方式は今後も継続していく予定である。一番の課題は、受講者とのコミュニケーション(質疑、討論、コメント用紙、ネット等)の充実を図ることである。人数も50名近くになると討論も難しく感じている。質問については、最後にならず「質問はありませんか?」と聞いてはいるが、反応はない。今後の課題である。</p>
---	---